

2020年12月19-20日 阿弥陀岳北稜・赤岳主稜

参加メンバー：L 谷内、若奈

寒波が来ると予報されていたこの週、阿弥陀岳北稜と赤岳主稜に行ってきた。

#### [1日目] 曇り

前日に降った若干の新雪があるものの、行者小屋まで凍結もなく歩きやすい。行者小屋に着くとテントはまだ一張りもなく、一番乗りだった。入山者もまだ少ない。幕営後に登攀装備を身に着け、ノートルースの阿弥陀岳北稜へ。積雪は30cm～膝ほどあり、これまでまともな降雪がなかったためか岩を踏み抜き、ラッセルとなった。JPから第一岩峰までは1ピッチロープを出した。雪がしっかりと付いていないため、なんとも登り難く厳しい。第一岩峰からはつるべで登攀し、時折岩場を覆う雪を手で払いながら登った。安定して登れるようになったね。と谷内さんから褒めてもらったのも束の間、第二岩峰の終了点でビレイ器が無いことに気づく。とりあえずムンターで確保し、事情を説明。探しながら懸垂下降することとなり、初めて北稜を懸垂で下山することとなった。幸いにも後続パーティーの方が、私のビレイ器具を拾ってくれており、命拾い。感謝。そのまま、全4回懸垂を繰り返し下山。不幸中の幸いから、貴重な経験となった。

#### [2日目] 雪のち曇り(下山時晴れ)

起床するとテントの中も霜で覆われている。雪が舞い暗い中、一番でテント場を出発。明るくなるが、先が見えないほどの視界不良。加えて、今シーズン一番の冷え込みと風。これまで主稜を登った中で、一番厳しい条件に感じた。主稜のトラバースに2ピッチロープを出した。雪がしっかりと付いていないため石が浮き、非常にトラバースが嫌らしい。CSからつるべで登攀開始。瞬間的に事前に降雪があったとは言え、雪はまだまだ少なく、CSを上ると大きな穴が開いていた(雪で繋がっていなかった)。4ピッチ目、ナイフリッジの様になっており見慣れた風景と異なり戸惑う。思うように支点が見つけれず、また50mの感覚がうまく掴めずロープを最大限伸ばし適当なピナクルで支点をとった。50mの感覚を掴むのが難しいとしみじみ感じた。時折変なところを登ってしまったところを谷内さんに修正してもらいながら、全7ピッチ登りきれた。下山する頃には、風も穏やかになり青空が見え、晴れ予報がスライドしたように感じた。

#### [コースタイム]

1日目：美濃戸(5:50 発)-行者小屋(8:35 着、幕営後 9:25 発)-北稜第二岩峰終了点(12:30 着、懸垂開始)-行者小屋(14:45 着)

2日目：行者小屋(5:25 発)-主稜トラバース取りつき(6:30)-CS 登攀開始(7:15)-終了点(11:20)-展望荘(11:45)-行者小屋(12:45 着、撤収後 13:20 発)-美濃戸(15:05 着)



① ノートレースの北稜



② 第二岩峰ナイフリッジ



③ 北稜を懸垂中



④ 主稜トラバースが見えない



⑤ CS



⑥ 下山中晴れ間が